令和5年4月1日

令和5年度 中央区立銀座中学校経営計画

中央区立銀座中学校
校長 平 松 功 治

はじめに

生徒、保護者はもちろんのこと地域や関係機関から厚い信頼を寄せられ、銀座中学校は選ばれる存在になっています。生徒数が年々増加し、生徒数は学校のエネルギーに比例しますのでありがたいことです。

教育の根底にあるものは誠実・信頼です。生徒は自分のことを真剣に考えてくれる人に心を開き信頼を寄せます。「すべては生徒のために」判断基準はこの一点に尽きます。子供たちはかけがえのない存在であることを心に深く留め、生徒を一人の人間としてリスペクトする心を常に持ち、指導にあたってください。

Ⅰ 学校教育目標　きたえる学校【校訓】

1 自ら考え 進んで学ぶ人になろう
2 情操を高め 心豊かな人になろう
3 心身をきたえ たくましい人になろう

Ⅱ 目指す生徒像・学校像

生徒を一人の人間としてリスペクトすることを前提とし、授業で身に付けた基礎的な力を行事等で発揮させ実践力をきたえる「銀座中学校 正のスパイラル」を意識し日々の学習活動に取り組ませ、生徒の自己有用感を高める。

目指す生徒像　「銀座中学校 正のスパイラル」を自らまわす生徒
具体的な銀中生の姿 〇よく考える銀中生 話をよく聞き、心と頭でよく考え、自分の意見や考えが相手に伝わる表現力をもつ 〇やさしい銀中生 豊かな人間性、多様性を受容する共生の心をもつ 〇つよい銀中生 基本的生活習慣や自己有用感を獲得した健全な心身をもつ
目指す学校像(教師像) 「リスペクト(尊敬)」・「チームワーク(協働)」・「オープン(連携)」

Ⅲ 学校経営の基本方針(中期的目標と方策)

赤字…スパイラルの基準（入口）　緑字…スパイラルの規準（出口）

1 「自ら考え 進んで学ぶ人」を育成するために(よく考える銀中生) → 確かな学力の向上

(1) 授業規律を徹底し、毎時間の授業を大切にする意識を高める。
(2) 授業の質の向上を目指し、生徒に学ぶ喜びを味わわせ、学習意欲を向上させる。
(3) 国数英社で少人数、習熟度別指導を通し、個に応じた指導を充実させる。
(4) 銀座タイムや家庭学習の取組を充実させ、生徒の学習習慣の確立を図る。

2 「情操を高め 心豊かな人」を育成するために(やさしい銀中生) → 豊かな人間性の育成

(1) 人権教育の徹底を図り、いじめ・不登校・問題行動等の未然防止、早期発見解決に努める。
(2) 通常の学級と特別支援学級の交流及び共同学習を推進し、多様性を受容する共生の心を育てる。
(3) 全教育活動で道徳教育を推進するとともに、道徳科授業における話し合い活動を充実させる。
(4) 主体的に生徒会活動や係活動等に関わらせ、奉仕の精神や集団への所属意識を高める。

3 「心身をきたえ たくましい人」を育成するために(つよい銀中生) → 健全な心身の育成

(1) 基本的生活習慣(挨拶・返事、時間遵守、整理整頓、感染症にかかりにくい生活様式)を身に付ける。

(2) 行事等の体験活動に主体的に取り組み、達成感や充実感を味わわせ、自己有用感を高める。

(3) キャリア教育を充実させ、将来にわたる生き方と自己実現を進め、将来展望性をはぐくむ。

(4) 外部講師を招いての授業や行事を充実させ、健康や安全の意識高める。

○ 保護者や地域の期待に応えるために → 開かれた銀座中学校

(1) 銀座の地域特性を生かした体験的な学習を充実させ地域理解教育を推進する。

(2) 学校WEBサイト、学校だより等各種たより、タブレット端末を活用し、学校広報を充実させる。

(3) 保護者、学校評議員による学校評価、生徒授業評価を充実させ、校務改善に生かす。

Ⅳ 今年度の取組目標と方策

1 確かな学力の向上

(1) 「学習の基盤としての資質・能力の育成」を研究主題とした校内研究を充実し、学力向上を目指す。

(2) 授業規律を徹底するとともに、毎時間の授業の質(後述 1−(5))の向上を目指し、生徒が授業を大切にしようとする意欲に応える。

(3) 各教科において、1時間の授業で、単元や小単元のまとまりの中で、主体的な学習活動、対話的な学習活動、深い学びの学習活動の3つを意識し、主体的・対話的で深い学びを実現する。

		資質・能力		
		知識技能	思考判断表現	取り組む態度
学習基盤	言語能力	①	②	③
	情報活用能力	④	⑤	⑥
	問題発見・解決力	⑦	⑧	⑨

(4) 学習の基盤としての資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)は、右のマトリックス表になる。毎時間の授業が①～⑨のどれにあたるかを意識にして授業に臨む。また、校内研究で担当したマトリックス番号は責任をもって学習指導案で表現する。

(5) 毎時間の授業の質を向上させる。授業改善の視点として以下の8つを共通理解する。赤字の4つは今年度の重点として意識的に取り組み、生徒に意欲的に授業に取り組ませる。(令和5年度授業観察シート参照)。

①「できた」「分かった」を実感できる授業	②タブレット端末を有効活用した授業
③交流・対話が活発に行われる授業	④既習事項や経験を活用した深い学びの授業
⑤生徒が興味をもつ教材・題材の授業	⑥授業の見通しやねらい課題内容が明確な授業
⑦他教科や社会・生活につながる授業	⑧振り返り活動が充実している授業

(6) 始業前の銀座タイムの自主学習に、落ち着いた環境で取り組ませ、一日の授業に臨む雰囲気づくりをする。通年を通して、読書活動、タブレット端末を用いたドリル学習、各種検定合格の取組を計画的に行い、基礎・基本の知識の獲得に努める。

(7) 国語、数学、英語、社会において、少人数指導、習熟の程度に応じた指導を展開する。また、学級単位の授業においても個別最適化された指導の工夫を充実させる。

(8) 全員対象の2年時の漢字検定、3年時の英語検定に向けて、各学年及び当該教科は、計画的に事前学習に取り組ませる。また、各検定とも3年卒業期までに3級合格を目標とする。

2 豊かな人間性の育成

⑴ 生徒一人一人を尊重する教育を進める、生徒の存在をリスペクトし、生徒から学べる謙虚さを教師が もち、いじめや暴力、暴言を許さない学校文化を教師自らが実践し、形成する。

⑵ 問題行動につながる恐れのある芽を早期に摘むため、組織として報告・連絡・相談を丁寧に行う。保護者との連携は密にし、頭から上の怪我、アレルギー反応については、原則、病院に受診するなど丁寧に対応する。

⑶ 通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を推進するとともに、毎時間の授業でも協働学習を意識した教育活動を展開し、仲間とともにつくり上げる成功経験を多く積ませ、共生の心を育てる。

⑷ 全教育活動を通して道徳教育を推進するとともに、その要となる道徳科を大切にする。道徳科では、道徳的価値を広げたり、深めたりする話し合い活動を充実させる。道徳授業地区公開講座では、いじめ防止に関連する内容項目で保護者・地域に授業を公開する。

⑸生徒会活動、委員会活動、各行事の実行委員及び、学年・学級の係、 当番活動を全体の奉仕者として価値付け、一人一人の生徒の能力に応じて、主体的に関わらせることで、所属する集団に貢献することの喜びや誇り、奉仕の心を育てる。

⑹ 銀座の地域特性を生かした体験的、問題解決的な教育を推進する。銀座中学校の特色として歌舞伎等日本の伝統芸能学習、銀座ミツバチプロジェクトの理解等、地域特性や人材を生かした教育 活動を充実させる。銀座の地域特性として、多様化(ダイバーシティ)が挙げられる。多様化の最先端の「銀座の街」にある銀座中校の特性を生かした教育活動を、本校の特色ある教育活動として創造していく。

3 健康に過ごせる心身の育成

⑴ 集団として集まる場(全校朝礼、学年集会、授業等)では、TPOをわきまえた言動ができるよう指導 する。また、基本的生活習慣のうち、①挨拶・返事、②時間遵守、③清潔・整頓、④感染症にかかりにくい生活様式を本校の重点とし、一人一人の教員としてまた、組織として指導にあたり、全生徒に習慣として身に付けさせる。

⑵ 体育大会、文化発表会、宿泊行事、校外学習などの学校・学年行事等の体験活動に生徒に主体的に取り組ませ、達成感や充実感を味わわせることで、自己有用感を高める。

⑶ 3年間を見通した進路指導の充実を図る。職場訪問や職場体験学習に主体的に取り組ませ、自己の生き方のついて考えを深めさせるなど将来展望性の育成を図る。

⑷ 外部の教育資源を活用し、薬物乱用教室、救命救急講習会、命と心の授業、食育講演会、SOSの出し方授業、セーフティ教室等の体験型授業を充実させ、自らの心身の健康と安全に対する意識を高める。

⑸ 銀座中学校部活動方針に基づき適正な部活動運営を行う中で、各教員の強みを生かすとともに外部指導員を有効に活用し、生徒の個性伸長を図る。

Ⅴ 今年度の教育活動を進めるにあたっての解決すべき本校の課題

1 選ばれる銀座中学校の責任

冒頭にも書きましたが、ここ3年間、銀座中学校は抽選校として選ばれる存在になり、生徒数は増え、今年度、通常の学級は全学年4学級規模となりました。生徒数は学校のエネルギーに比例しますのでありがたいのですが、多様な背景をもち配慮が必要な生徒が増えるのも事実です。繰り返しになりますが、「すべては生徒のために」判断基準はこの一点です。一人一人の子供たちは、かけがえのない存在であることを心に深く留め、リスペクトの心を常に忘れず指導にあたってください。

2 ポストコロナ等の課題に柔軟に対応した教育活動

これまで銀座中学校では、コロナ対策を徹底し、校内でクラスター感染することはなく教育活動を進めています。この間、私たちは感染症予防には、手洗いうがいが最も簡単で有効な手段ということを実感しました。今年度も感染症にかかりにくい生活習慣の徹底をお願いします。また、行事等の体験活動は、生徒の深い学びを実現し大きく成長する重要な教育活動ですので、感染症対策を講じた無理のない計画を立てるのが前提ですが、可能な限り実施していきたいと考えています。

3 毎時間の授業を充実させる

日常の授業をしっかり充実させてください。生徒にとっては毎時間の授業が一期一会です。私たち教員はそのことを自覚して、教壇に立つ必要があります。もちろん授業は、教師だけでつくるものではありません。生徒にもこの基本姿勢は厳しく求め続けてください。

生徒は、毎時間の授業で基礎的な資質・能力を身に付け、身に付けた力を行事という実践の場で活用し、深い学びを実現します。行事等の成功体験を通し、生徒は一日で別人のように成長するのを私は何度も目の当たりにしています。一回り大きくなった生徒が、また日々の授業・日常の学校生活を充実させる。この繰り返しが中学校3年間の学校生活のスパイラルです。銀座中学校はこの正のスパイラルを大切にします。

4 学力向上を目指す校内研究に当事者意識をもつ

都内に600以上ある公立中学の中で、銀座中学校が解決すべき教育課題のテーマはやはり「学力の向上」です。令和4・5年度の中央区研究奨励校の指定を受け、「学習の基盤となる資質・能力の育成」を研究主題に、学力向上を目指した校内研究が２年目を迎え、その研究成果を1月26日に発表し、世に広めます。

本校はこれまでも継続的に学力向上をテーマに校内研究を進めています。そのレガシーをしっかり受け継ぎ、校内研究を進めています。生徒の学力向上と教員の授業力向上は表裏一体です。研究推進委員長、推進委員会がリーダシップを発揮し組織的に研究を進める中で、すべての先生方が当事者意識をもって、校内研究に取り組んでください。

5 保護者・地域の願いに応える

(1) チーム力をアップさせ保護者の願いに応える

保護者の願いは、①学力保障②進路保障③健全育成④部活動の充実です。①～③は、保護者と同じベクトルですが、④に関しては教員の働き方改革と相反するベクトルで、今年度も保護者に丁寧な部活動を取り巻く状況説明が必要です。ただ、中学生らしく充実した学校生活を送るために、部活動は大切な活動です。保護者の願いに応えることができる教師としての自分の強みは何か、反対に弱みは何かを自覚し、強みの部分はリーダシップを発揮して組織貢献し、弱みは組織でカバーしていきましょう。

(2) 個々が保護者への説明責任を果たす

生活指導等で問題がこじれる一番の原因は、通院が必要なケガなのに一人で帰宅させてしまったり、 報告や謝罪を億劫がったりの初期対応のまずさです。電話1本するかしないかで、その後の展開が大きく異なります。管理職への報告・連絡・相談を含め、その日にできることを必ずやりきってください。特に頭から上のけがや事故は必ず医者の診断を受けるように動いてください。

また、デイリーライフは家庭との連携、生徒理解の深化、家庭学習の習慣化といった効果があります。学級担任の先生方には負担をおかけしますが、引き続きよろしくお願いします。

(3) 地域や同窓会、保護者、教育委員会との信頼関係を構築する

全国約10,000校ある中学校で「銀座」を名前にもつ学校は本校だけで、地域、卒業生、保護者はそのことを誇りに思ってる学校です。生徒の自己肯定感を高めるために自校の誇りの醸成は効果的です。ポストコロナとなり、様々な地域行事が日常を取り戻しつつあります。祭礼パトロールやPTA行事などへ参加していただく先生方にはとても感謝しています。銀座中学校の信頼を高める取組であるということをご理解いただき、ご協力をお願いします。

また、個人が作成する研修報告書や担当者が作成する調査報告書等は期日が存在します。自分の締め切りの先に、担当者(副校長→区教委→都教委→文科省)の締め切りがあることを意識し、提出物は期限厳守で、そのためには余裕をもって取り組む習慣を身に付けてください。

6 組織貢献力を高める

本資料を熟読していただいて、それぞれの立場で本校の教育活動の充実・発展に何ができるかを考え、授業や校務分掌等で実践してください。自己申告の面接は、自己の組織貢献力をアピールする絶好の機会です。その内容を自己申告書に明記してください。